

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyouhou.html>

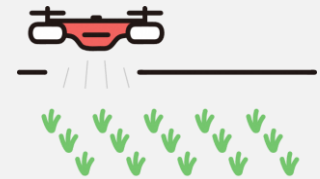
令和8年 稲作情報 vol.4



【問い合わせ先】 南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262
南郷普及所 Tel 0241-72-2243
J A 会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172
南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

●チェックポイント

- ・ 適切な水管理で有効茎数を確保しましょう。
- ・ 雑草種に応じた除草剤を選択し、適期散布を行いましょ。
- ・ いもち病対策を行いましょ。



1 気象情報（気象庁、1か月予報 5/16～6/15）

仙台管区气象台1ヶ月予報によると、暖かい空気に覆われ、向こう1ヶ月の気温は高くなる見込みです。育苗時の高温や、熱中症に注意しましょ。

～農作業事故・熱中症に注意～

春はトラクター等の利用が多くなり、農作業事故が発生しやすくなります。機械の点検、安全フレームを立てる、シートベルトを締めるなど安全対策を徹底しましょ。

また、気温が高くなることから、熱中症にも注意しましょ。特に、体が高温に慣れていない5月は注意しましょ。

農作業安全・熱中症対策について（県 HP）→



2 水管理

(1) 田植え～活着（田植え後5～10日）

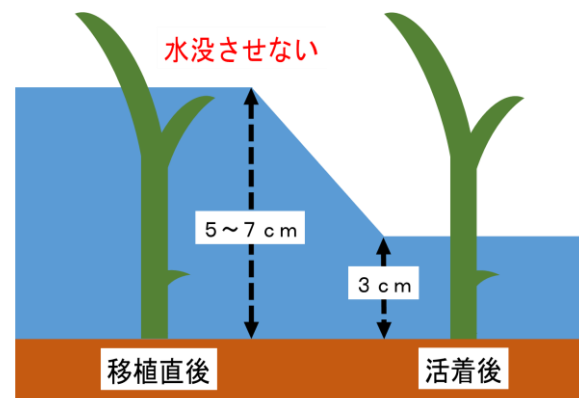
- ・ 活着までは深水管理

（苗が水没しない程度）

(2) 活着後（田植え後約1ヶ月）

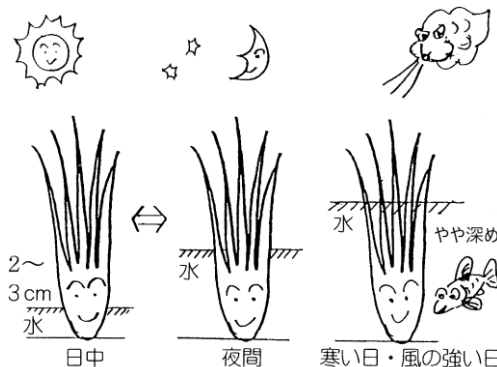
- ・ 分けつを促すため浅水管理としましょ。

（日中3cm、夜間5cm、寒い日や強風の日は深水管理）



(3) 分けつ期（活着後～6月下旬）

- ・ 日中と夜間の水温較差を大きくし分けつを促すため、**水深3cm程度の浅水管理**とします。
- ・ ガスわきがおきると根が傷み、生育不良となります。ガスわきが発生したら直ちに落水し、2～3日程度干しましょう。



(4) 有効分けつ決定期～幼穂形成始期（7月上旬）

- ・ **必要茎数**（コシヒカリ 20 本/株、ひとめぼれ 25 本/株）**を確保したら中干しを実施**しましょう。田面に幅 1 c ほどの亀裂が入る程度を目安に行いましょう。
- ・ 中干しを行うことで、無駄な分けつが抑えられるとともに、根張りが良くなることで倒れにくくなります。また、土壌を固められるため、収穫時の作業性の向上にもつながります。
- ・ 生ワラ施用田や粘質土壌、生育過剰田では強めに、地力のない田や茎数が少ない田、葉色が薄い田、砂質土壌では軽く干す程度に実施しましょう。

3 雑草対策

(1) 藻類・表層剥離の対策

- ・ 移植後に藻類や表層剥離が多発生すると、水温や地温の低下、苗のなぎ倒し、肥料養分の競合により分けつを抑制してしまうため対策を行いましょう。
- ・ 対策 1 : **落水**して軽く田面を干す。
- ・ 対策 2 : 藻類（アオミドロ）や表層剥離に登録のある**除草剤を散布**する。

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の使用回数
モゲトン 粒剤	藻類（アオミドロ、アミミドロ）	藻類・表層剥離の発生時（但し、収穫 45 日前まで）	2 kg	水口施用	3 回以内
		ウレキ類、藻類の発生始～発生盛期（但し、収穫 45 日前まで）	2～3 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	
	藻類による表層剥離	藻類・表層剥離の発生時（但し、収穫 45 日前まで）	2 kg	水口施用	
			1～2 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	

(2) その他雑草防除の対策

- ・ 取りこぼしや後発生した雑草の種類に応じて中期除草剤を散布しましょう。発生したノビエの葉齢を確認し、防除適期を逃さないようにしましょう。
- ・ 除草剤散布後 7 日間は止水管理とし、落水やかけ流しは行わないようにしましょう。

○中期除草剤の例

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の使用回数
ツイゲキ 1 キロ粒剤	一年生雑草、多年生雑草、アミト [®] ・藻類による表層はく離	移植後 14 日（稲 5 葉期以降）～ノビエ 4 葉期（但し、収穫 60 日前まで）	1 kg	湛水散布または無人航空機による散布	1 回
ヒエクリーン 1 キロ粒剤	ノビエ	移植後 15 日～ノビエ 4 葉期（但し、収穫 45 日前まで）	1 kg	湛水散布または無人ヘリコプターによる散布	1 回
バイスコープ 1 キロ粒剤	一年生雑草（ノビエを除く）、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ、	移植後 14 日～60 日（但し、収穫 45 日前まで）	1 kg	湛水散布、ごく浅く湛水して散布、または無人航空機による散布	1 回

4 いもち病対策

（１）葉いもちの対策の基本は「箱処理剤」です。

（２）穂いもち対策として粒剤を使用する際は使用時期を逃さずに防除しましょう。

・ いもち病の発生源となるため、置き苗が残っている場合は速やかに廃棄しましょう。

※耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤の連用は避けて下さい。

薬剤名	有効成分名	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の使用回数
コラトップ粒剤 5	ピロキロン	葉いもちに対しては初発 10 日前～初発時、穂いもちに対しては出穂 30 日前～5 日前まで	3～4 kg	散布	2 回以内
フジワン粒剤	イソプロチオラン	葉いもちに対しては初発 7～10 日前、穂いもちに対しては出穂 10～30 日前まで（但し、収穫 30 日前まで）	3～5 kg	湛水散布	2 回以内

※福島県病害虫防除所 HP にて、6 月 1 日からいもち病の発生予察情報を公開しています。

日々の対策にご活用ください。



福島県病害虫防除所 HP

**次回 斑点米カメムシ類対策、水管理について
6 月中旬発行予定**